

2016 年度 東京大学 前期 世界史

第 1 問 1970 年代後半から 1980 年代の世界の各地域の政治状況の変化

出題範囲	現代の政治史
難易度	★★★☆☆
所要時間	45 分
傾向と対策	例年の問題のような長い時間軸に対して横断的に歴史を見る問題ではなく、時間軸も地域も、論述すべきことも限定されている問題であるため、比較的書きやすい問題だといえる。しかし、書くべき内容が現代史であり、十分に覚えきれていない受験生が多い分野なので、その点においては難しい。東大世界史はどの分野が出題されるかわからない。現代史についてもしっかりと演習をしておこう。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

《字数について》

東京大学二次試験地歴科目で用いられる 30 字詰め原稿用紙にもとづき、「1 行=30 字」と換算した解答の冒頭にある設問番号も文字数に含んでいる

英字・算用数字は「1 マスにつき最大 2 文字」書くことを前提として計算した

例 800 年の場合

80	0	年
8	00	年

1200 年の場合

12	00	年
----	----	---

ASEAN の場合

AS	EA	N
----	----	---

合格答案

東アジアの 70 年代後半の中国では、鄧小平が改革・開放政策を指導し、外資の導入・経済特区の指定をした。それ以降、中国の経済成長は著しい。89 年の天安門事件で民主化は弾圧され、以降も共産党の一党独裁体制が続いた。韓国は、アジアニーズの一角となるまで経済成長を遂げた。朴正熙以降軍事政権が続き、光州事件で民主化運動は弾圧されたが、盧泰愚は民主化を宣言し、以後民主的政治が続いた。中東では、79 年のイラン革命で、シーア派のホメイニを指導者として、イラン=イスラーム共和国が誕生し、スンナ派のサダム=フセインを指導者とするイラクの間でイラン=イラク戦争が勃発した。これ以降、シーア派国家とスンナ派国家の争いは絶えない。中東戦争以降対立するイスラエルとエジプトは、79 年に平和条約を締結し、エジプトにシナイ半島が返還された。その後、イスラエルがレバノンに侵攻するなど、イスラエルとパレスチナ解放機構の対立はますます

す激しくなり、インティファダが開始された。以降、パレスチナ問題は複雑化している。中米・南米では、80年代前半にアルゼンチンとイギリスの間でフォークランド紛争が勃発し、アルゼンチンは敗れ、民政移管が進んだ。また、戦後から社会主義政権や軍事政権が成立している中南米に対し、グレナダ侵攻などの干渉を行った。中南米では、80年代には民政移管の動きが強まり、民主化が進んだ。(577字)

高得点答案

東アジアの中国では、文化大革命後、鄧小平が改革・開放政策を指導し、経済特区を導入、人民公社を解体し、以降中国の経済成長は著しい。89年の天安門事件で民主化運動は弾圧され、以降は共産党の一党独裁体制が続いた。韓国は、朴正熙政権が開発独裁を進めて経済が発展し、アジアニーズの一角と称された。朴正熙政権以降軍事政権が続き、80年、全斗煥が光州事件で民主化運動を弾圧したが、盧泰愚政権以降民主化が進んだ。中東では79年の革命でシーア派のホメイニを指導者として誕生した反米のイラン＝イスラーム共和国と、スンナ派で親米のサダム＝フセインを指導者とするイラクの間で、80年にイラン＝イラク戦争が勃発した。これはイラクの軍事大国化・財政悪化を引き起こし、90年代以降の中東の混乱を招いて、シーア派とスンナ派の対立は激化した。中東戦争以降対立していたイスラエルとエジプトは、79年に平和条約を締結し、エジプトにシナイ半島が返還された。しかしアラブ諸国はこれに反発し、アラブの協調が崩れた。中米・南米各国には多くの軍事独裁政権が成立していたが、金融危機などを理由に、80年代に徐々に民主化が進んだ。イギリスとのフォークランド紛争に敗れたアルゼンチンでは、翌年軍事政権が倒れ、民政に移管した。左翼政権の国家は反共の立場をとるアメリカの干渉を受け、アメリカのレーガン政権はグレナダに介入して左翼政権を倒した。(585字)

設問の要求

字数 600字以内（20行以内）

主題 1970年代後半から1980年代にかけての、東アジア・中東・中南米の政治状況の変化

条件 記述する変化は1990年代以降につながる変化でなければならない

指定語句をすべて使用し、下線を引く

解説

(1) 設問の読み取り

東大の世界史第1問の問題文は、例年前置きがあってその後に本題に入る、という構成である。前置きは決して無視していいものではなく、重大なヒントであることは間違いない。今回は「1990年代以降につながる」1970年代後半から1980年代の政治状況の変化について論じねばならない。

現代史は、勉強が手薄になりがちである。「グレナダ」や「光州事件」を使えなかった受験生も多いのではないだろうか。試験ではどんな語句が出てくるかわからないため、知らない語句に出会ったらそのままにせず、内容を調べる癖をつけよう。また、この問題に限らず、複数の地域について述べる問題では、年代順ではなく地域ごとに書くとうまくまとまることが多い。

(2)指定語句の考察

それぞれの語句から答案に含むべき要素を挙げていく。ただ語句の説明をするだけでは、点数は伸びない。全体的な流れを述べつつ、与えられた語句から関連する具体的な出来事を連想し、解答に盛り込んでいくと高得点が望める。

〈東アジア〉

【中国】

鄧小平…文化大革命後の政治・経済の混乱→鄧小平の改革開放政策の指導→中国の経済成長

それ以外で入れたほうがいいと思われる事柄に、1989年の**天安門事件**がある。これは「**共産党による民主化運動の弾圧**→**共産党の一党独裁体制の継続**」という、韓国の民主化と反対の流れとなっており、また、1990年以降につながる変化だからである。

※鄧小平は国家主席でない点に注意する。

※台湾を解答に含めるか否かは字数との相談になる。今回の答案には含まなかったが、「台湾は、李登輝が総統のとき、民主化が急激に進み、経済成長の結果アジアニーズの一角と称されるようになった」などと入れてもよい。

【韓国】

アジアニーズ（韓国・台湾・香港・シンガポール）…**韓国の経済発展**（←開発独裁によるもの）

光州事件…民主化運動の弾圧。「**開発独裁**、**軍事政権**→1980年代後半の**民主化**」という大枠が解答の軸となる。

〈中東〉

イラン＝イスラーム共和国…「イラン」ではなく、あえて正式名称で語句として扱っているのだから、「**1979年のイラン革命で誕生した**」や、「**ホメイニを指導者として誕生した**」など、少しはイランが誕生したときのことを説明したほうがよいであろう。そして、「**シーア派・反米のイランとスンナ派・親米のイラクの対立構造**→**イラン＝イラク戦争（1980年）**→**イラクの軍事大国化・財政悪化**→**イラクのクウェート侵攻（1990年）**、**湾岸戦争（1991年）**、**イラク戦争（2003年）**」とつながる。1990年以降の事柄は問われていないので、具体的な語句を明示する必要はないが、1990年以降の出来事に影響を及ぼしたことは明示したほうがよい。

サダム＝フセイン…イラクの指導者である。イランとの関係で使うことが予想される。1980年からイラン＝イラク戦争を指導し、1990年には隣国クウェートに侵攻して湾岸戦争を招いたが、多国籍軍に敗れて撤退した。

シナイ半島…**1979年のエジプト＝イスラエル平和条約**において、エジプトに返還されたことを記述するのがベストな使い方であろう。そして、エジプトがイスラエルと和平を締結したことで、アラブ諸国はエジプトに反発した。アラブ連盟の盟主であったエジプトは、アラブ連盟の加盟資格を停止され、エジプトの地位は低下した。シナイ半島から第3、第4次中東戦争を連想する受験生もいるかもしれないが、それぞれ1967年、1973年に起こった戦争であるため、「1970年代後半から」という問題文の指定にあわない。

〈中米・南米〉

フォークランド紛争…アルゼンチンとイギリスの紛争。ここでは、フォークランド戦争自体が重要なわけではない。そこから連想されるアルゼンチンが重要であり、**軍事独裁政権が倒れ、民政に移管した**国家の例として挙げられる。同様の例に、**チリ**が挙げられる（チリでは83年の経済危機以来、軍部を批判する運動が高まった。ピノチェトの軍事独裁政権が倒れ、民政に移管したのは90年）。

グレナダ…カリブ海の国。1979年に、それまでの独裁政権が倒されて左翼政権が成立した。1983年、アメリカのレーガン政権は**グレナダに軍事侵攻**を行い、政権に介入し、グレナダの左翼政権は倒された。ここでは、「**左翼政権の成立→アメリカの干渉を受けた**」国家の例として挙げられる。同様の例に、パナマやニカラグアがある。

(3)解答の大枠作成

語句から大体述べるべきことが連想できたら、大論述の大枠を作成しよう。

〈東アジア〉

【韓国】「**開発独裁→経済発展**」

「**軍事独裁→1980年の光州事件→民主化**」

【中国】「**文化大革命の混乱→1978年からの改革・開放政策→経済発展**」

「**文化大革命の混乱→1989年の第2次天安門事件→共産党の一党独裁体制**」

〈中東〉

「**1980年のイラン＝イラク戦争→イラクの軍事大国化**、戦費による**財政悪化→1990年のイラクのクウェート侵攻**、1991年の湾岸戦争、2003年のイラク戦争（**中東の混乱**）」

「イスラエルとアラブ連盟の対立（**中東戦争**など）→1979年のエジプト＝イスラエル平和条約→エジプト、アラブ連盟の加盟資格を停止される（**エジプトの地位の低下**）」

「**1979年のエジプト＝イスラエル平和条約**→（イスラエルは、エジプトと和解したので南部の心配はなくなる。北部のレバノンに攻撃を集中させることができる）→1982年イスラエルがレバノン（PLOの拠点）に侵攻したことで、**アラブ人の反イスラエル運動が活発化**→1987年、第1回**インティファダ**が開始される→両者の対立が激しくなる中、アメリカが和平に向けた動きをみせる→1993年、パレスチナ暫定自治協定（オスロ合意）」
⇒1979年のエジプト＝イスラエル平和条約によって、1980年代にイスラエルとアラブ諸国の対立は激化するも、1993年には**オスロ合意**で和解に至る。1990年代のことを解答に含むことはできないので、「エジプトの地位が低下した」という記述の代わりに、イスラエルとアラブ諸国の対立が激化し、インティファダが起こったことを述べてもよいだろう。

〈中米・南米〉

「**軍事独裁政権→民政移管**」…アルゼンチン、チリなど

「**左翼政権の誕生→アメリカの介入**」…グレナダ、ニカラグアなど

(4)解答の草案作成

大枠を作成したら、あとはその大枠に、与えられた語句や自分のもっている知識を具体例として盛り込んで解答を作成する。ある程度全体のイメージがいたら、そのまま書き始めてもよいが、東大本番の試験では、問題冊子に下書きスペースがきちんと設けられているので、30分ぐらいかけ草案を完成させたあと、それを15分ぐらいで解答用紙に写すのが望ましい。字数を超えたり、あとからつけ加えたりすることを避けるためである。なお、高得点答案例には年号を多用したが、年号は必ずしも書く必要はない。

◆整理 戦後の中南米

グレナダ

左翼政権の成立→1983年、アメリカ軍の侵攻→和平

ニカラグア

独裁政権の成立→1979年、ソモサ独裁政権をサンディニスタ民族解放戦線（左翼）が打破（ニカラグア革命）→左翼政権の成立→1983年、アメリカ軍の侵攻→和平

チリ

アジェンデ政権（左翼政権）→1973年、ピノチェト軍事独裁政権→1990年、民政移管

アルゼンチン

軍部独裁政権→1982年、フォークランド戦争で敗北→1983年、民政移管

ブラジル

軍事政権→1960年～70年の高度経済成長から一転、1980年代以降の経済問題→1985年、民政移管

（佐野来実，是永郁治，谷口昂輝）

2016年度 東京大学 前期 世界史

第2問 国家の経済制度・政策

出題範囲	中世～近世の経済・政治史
難易度	★★★☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	<p>経済制度・政策についての問題。経済に関する知識はおろそかにされがちだが、出題頻度は高いので注意しよう。また、今回は問(1)や問(2)(a)のように語句の説明を求める問題が多かった。自分の言葉で説明するためには、学習した内容をしっかりと理解しておく必要がある。そのため、これらの問題は、単純ながら各人の理解度を測ることができる良問であるといえる。答えられなかった人はよく復習しておこう。問3のように複数の国の政策を比較させる問題も頻出である。資料集などを用いて縦の流れ（各国史）だけでなく横のつながりも意識して勉強しよう。</p>

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

《字数について》

東京大学二次試験地歴科目で用いられる30字詰め原稿用紙にもとづき、「1行=30字」と換算した

解答の冒頭にある設問番号も文字数に含んでいる

英字・算用数字は「1マスにつき最大2文字」書くことを前提として計算した

例 800年の場合

80	0	年
8	00	年

1200年の場合

12	00	年
----	----	---

ASEANの場合

AS	EA	N
----	----	---

解答

問(1) (a)イクター制

俸給を直接現金で付与するアター制に代わる制度で、軍人に対し君主への軍事奉仕の義務と引き換えに分与地の徴税権を与えた。(58字)

(b)カピチュレーション

外国人商人に領内での居住と通商の自由という恩恵の特権を与えた。帝国が衰退したあとに西欧列強が侵略の口実として利用した。(59字)

- 問(2) (a) 支配階層の組織化を図り彼らを等級付け、官位に応じて維持すべき騎兵・騎馬数を定め、それに応じ
 給与を徴税権の形で与えた。(59 字)
- (b) 人頭税復活や寺院の破壊などでヒンドゥー教を弾圧したため、各地で反乱が勃発し地方勢力が伸長、
 鎮圧のために財政が悪化した。(60 字)
- 問(3) 貿易で覇権を握るオランダに英仏は重商主義政策で対抗した。イギリスはクロムウェルが航海法を制定し
 て中継貿易に頼るオランダに打撃を与えた。フランスはコルベールが貿易差額主義をとり、東インド会社
 の再興や特権マニファクチュアの創設などを行った。(120 字)

問(1) 難易度：★★★★☆

(a)

解答例

(a) イクター制

俸給を直接現金で付与するアター制に代わる制度で、軍人に対し君主への軍事奉仕の義務と引き換えに分与地
 の徴税権を与えた。(58 字)

設問の要求

字数 60 字以内 (2 行以内)

主題 10 世紀にブワイフ朝が始めた土地・税制度 (イクター制) の特徴

条件 制度の名称を書き、行を改めて説明する

解説

10 世紀にブワイフ朝が始めた土地・税制度は **イクター制** である。本問では、設問文に「西ヨーロッパの封建制やビザンツ帝国のプロノイア制にも似た特徴」とあるので、まずイクター制と封建制、プロノイア制について考える。イクター制とは、君主が軍人に対して俸給の代わりに土地の徴税権を与え、農民や都市民から徴税させる制度であり、軍人は見返りとして軍事奉仕の義務を負った。西ヨーロッパの封建制は主君が家臣に封土を与えて保護する代わりに、家臣は主君に忠誠を誓い軍事奉仕の義務を負うという個人間の双務的契約関係だった。プロノイア制は功績のあった貴族などに、恩恵として土地の管理を任せて徴税権を与える代わりに、軍事奉仕の義務を負わせる制度であった。以上から、3 つに共通する特徴として、**君主が土地の徴税権を与え、その代わりに軍事奉仕の義務を負う**ことが挙げられる。

一方で、イクター制特有の特徴について考えると、**アター制からの転換**が挙げられる。アター制とは、軍人の軍事奉仕の見返りに直接現金で俸給を支払う制度のことである。アター制からイクター制に転換した理由として、9 世紀半ば以降の **マムルーク** 軍人の台頭がある。マムルークによる小王朝が地方に分立するようになると、カリフの権力は衰退し、国庫収入が減少した。軍人に俸給を保証できなくなった君主は分与地 (イクター) の徴税権を与え、軍人の反感を避けたのである。ブワイフ朝で創始されたこの制度はセルジューク朝期に西アジアで広く施行された。

(b)

解答例

(b)カピチュレーション

外国人商人に領内での居住と通商の自由という恩恵の特権を与えた。帝国が衰退したあとに西欧列強が侵略の口実として利用した。(59 字)

設問の要求

字数 60 字以内 (2 行以内)

主題 16 世紀にオスマン帝国が導入した外国人商人に対する制度 (カピチュレーション) の内容, および後の時代に与えた影響

条件 制度の名称を書き, 行を改めて説明する

解説

16 世紀にオスマン帝国が導入した外国人商人に対する制度とは, **カピチュレーション**のことである。第一次ウィーン包囲 (1529 年) を通して神聖ローマ帝国と対立していたオスマン帝国は, イタリアへの介入をめぐって同じく神聖ローマ帝国と対立していたフランスに, 領内での居住・通商の自由を認めていた。これはスレイマン 1 世の時代に慣習化し, 次のセリム 2 世のもとで 1569 年に公に認められた。これがカピチュレーションの始まりであり, のちにこの特権はイギリスやオランダにも与えられた。そして 18 世紀以降, **オスマン帝国が衰退期を迎えると西欧列強はこの特権を利用して西アジアへの進出を図った。**

ちなみに, 設問文には「イスラーム法の理念にもとづき」とあるが, これは非イスラーム教徒 (特にキリスト教徒・ユダヤ教徒=啓典の民) を保護するという恩恵のことである。

問(2) 難易度: ★★☆☆☆

(a)

解答例

(a)支配階層の組織化を図り彼らを等級付け, 官位に応じ維持すべき騎兵・騎馬数を定め, それに応じた給与と徴税権の形で与えた。(59 字)

設問の要求

字数 60 字以内 (2 行以内)

主題 マンサブダール制について

解説

問題文より「第 3 代のアクバルは, **中央集権的な**機構を整え, ムガル帝国を実質的に建設した人物であった」とあり, 設問文では「アクバルの時代に整備されたマンサブダール制について」問われていることから, 本問ではマンサブダール制の中央集権的な特徴に着目して答えればよいことがわかる。

マンサブダール制とは, **支配階層を等級づけ, 官位に応じて維持すべき騎兵・騎馬数を定め, それに応じた給与と土地からの徴税権という形で与えた制度。**これは, **支配階層の組織化**を図った点で中央集権的である。支配階層にはヒンドゥー教徒も多く含まれており, **アクバルの治世のもう 1 つの特徴である, イスラーム・ヒンドゥー一両教徒の融和**を図ったという面も色濃く表れている。

(b)

解答例

(b)人頭税復活や寺院の破壊などでヒンドゥー教を弾圧したため、各地で反乱が勃発し地方勢力が伸長、鎮圧のために財政が悪化した。(60 字)

設問の要求

字数 60 字以内 (2 行以内)

主題 アウラングゼーブの時代の支配の弱体化

解説

アウラングゼーブ帝の治世の特徴としては、ムガル支配層が地租の徴収を強化したが、農村や都市で活発になっていた商品生産にはあまり関与しなかったこと、イスラーム教に深く帰依したアウラングゼーブ帝がヒンドゥー教徒を圧迫し、ヒンドゥー教寺院の破壊や人頭税の復活などを行ったことが挙げられる。このような治世が行われた背景として、アクバルの治世には支配を維持するためにヒンドゥー教徒の支持が必要だったが、アウラングゼーブの時代には支配領域が拡大してムスリム人口が増加し、ヒンドゥー教徒に頼る必要がなくなったことが挙げられる。そして、アウラングゼーブの時代の支配が弱体化すると、各地で農民反乱が発生し、マラーター王国やシク王国などの地方勢力が伸長して独立への動きをみせた。結果的に財政が悪化し西欧列強の干渉を招いた。

問(3) 難易度：★★★★☆

解答例

(3)貿易で覇権を握るオランダに英仏は重商主義政策で対抗した。イギリスはクロムウェルが航海法を制定して中継貿易に頼るオランダに打撃を与えた。フランスはコルベールが貿易差額主義をとり、東インド会社の再興や特権マニュファクチュアの創設などを行った。(120 字)

設問の要求

字数 120 字以内 (4 行以内)

主題 17 世紀のイングランド (イギリス) およびフランスで実施された経済政策

条件 政策を推進した人物の名や代表的な法令をあげる

解説

17 世紀というと、オランダが中継貿易によって利益を上げて、覇権国家として世界商業の中枢にあった時期であり、ヨーロッパの各国は重商主義によってオランダに対抗しようとした。イギリスやフランスも重商主義の経済政策を採用した国である。それでは、この 2 国の経済政策を重商主義的な面に注目してみよう。

この時期のイギリスではクロムウェルが政治を主導していたが、彼が行った経済政策としては 1651 年の航海法の制定が挙げられる。航海法とは、イギリスと貿易相手国以外の第三国の船がイギリスに商品を輸送することを禁止した法律であり、中継貿易を行うオランダを自国の貿易から排除することでオランダに打撃を与えることを目的としていた。この法律に反対したオランダとイギリスの間では英蘭戦争が勃発したが、オランダは敗北し、イギリスのオランダに対する優位が確定した。また、オランダのもつ北米植民地がイギリスに奪われる結果となった。

フランスはルイ 14 世の治世にあり、コルベールが財務総監として重商主義政策を展開していた。彼が行った

政策としては、東インド会社の再興、特権マニファクチュアの創設、関税の引き上げなどがある。これらの政策は輸出を輸入より多い状態にし、貿易における差額で国家収入を増加させようという貿易差額主義にもとづいて行われた。

(谷口昂輝, 町田佳奈子, 的場光紀)

2016 年度 東京大学 前期 世界史

第 3 問 世界史における民衆

出題範囲	古代・近代・現代の社会・文化・政治史
難易度	★★☆☆☆
所要時間	5 分
傾向と対策	民衆についての問題。例年に比べてやさしい問題が多い。混同しやすい同時代の人物・出来事を問う問(2)や問(8)と、頻出とまではいえない人物名を問う問(4)を除けば、基礎知識が試されているといえる。間違えた場合は、よく復習しておこう。また、復習する際には、正解だけでなく、なぜ間違えたかもあわせて確認しておきたい。間違えた原因が、問題の勘違いやよく読んでいなかったからであれば、注意して問題を読むことも意識する必要がある。

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 問(1) クレイステネス | 問(2) 陳勝 |
| 問(3) コロッセウム (別解: コロッセオ) | 問(4) ミュンツァー (別解: トマス=ミュンツァー) |
| 問(5) シク教 | 問(6) シパーヒー (別解: セポイ) |
| 問(7) パリ=コムューン | 問(8) 五・三〇運動 |
| 問(9) ホー=チ=ミン | 問(10) ペレストロイカ |

問(1) 難易度: ★★★★★

解答

クレイステネス

解説

B.C.508 年、旧来の 4 部族制を廃止して新たに 10 部族制を定め、**アテネ民主政の基礎**を築いた政治家は**クレイステネス**である。あくまでもアテネ民主政の「基礎」を築いた人物であり、アテネ民主政を築いた人物ではないため、B.C.5 世紀半ばにアテネ民主政を完成させた**ペリクレス**と間違えないように注意しよう。クレイステネスは従来の血縁による 4 部族制を廃止し、地域的な 10 部族制に移行させたほか、**オストラシズム (陶片追放)**の制度や五百人評議会を創設した。これらの改革によって貴族政・僭主政の再発防止を図り、民主政の基礎を確

立した。

※オストラシズム（陶片追放）…僭主の出現を防止するため、陶片（オストラコン）に危険人物の名前を記入し、投票総数が一定を上回ると最多得票者を10年間国外追放するという、市民による投票制度。B.C.487年に最初に施行されたが、のちに政敵を追い落とすために悪用されるようになり、デマゴーゴスによる扇動の道具となったため、B.C.5世紀末に中止された。

※五百人評議会…10部族から抽選で選出された50人ずつの評議員で構成された機関。民会のための予備審議や日常の行政を担当した。

問(2) 難易度：★★★★☆

解答

陳勝

解説

秦の圧政に対して蜂起し、「王侯将相いづくんぞ種あらんや」ということばを唱えて農民反乱を主導した人物は陳勝である。このことばは秦末に起きた中国史上最初の農民反乱である陳勝・呉広の乱で陳勝が残した名言であり、生まれや家柄などを問題にしないという意味で、戦国時代以来の実力主義の下剋上の風潮を示しているといえる。陳勝・呉広の乱は秦の始皇帝の死後、長城防備に徴発された陳勝と呉広が挙兵したことから始まったもので、またたく間に中国全土に広まった。この反乱自体は6カ月で鎮圧されたが、この反乱が口火となって各地で反乱が起こり、秦の滅亡の契機を作ったとされている。各地で起こった反乱の1つに農民出身の劉邦の挙兵があり、彼は楚の名門である項羽と天下を争った。

問(3) 難易度：★★★★☆

解答

コロッセウム（別解：コロッセオ）

解説

80年に完成し、剣闘士競技などが行われた都市ローマ最大の競技施設はコロッセウム（コロッセオ）である。コロッセウムは約5万人の観衆を収容できる円形闘技場で、剣闘士（グラディاتور）同士や剣闘士と野獣との闘いなどが盛んに実施された。コロッセウムで実施された競技はローマ市民の一番の娯楽として観戦され、有力者は支持集めのために「パンと見世物（サーカス）」の見世物（サーカス）としてこれを利用した。キリスト教が弾圧されていた頃は、コロッセウムの中で野獣の爪牙にかかり殉教したキリスト教徒が多数存在した。

問(4) 難易度：★★★★☆

解答

ミュンツァー（別解：トマス＝ミュンツァー）

解説

農奴制の廃止を要求して1524年に始まったドイツ農民戦争を指揮し、処刑された宗教改革者は、ミュンツァー（トマス＝ミュンツァー）である。ミュンツァーは、最初はルターの福音主義を支持していたが、1520年頃

から農奴制の廃止など急進的な改革を主張して、ドイツ農民戦争を指導した。ドイツ農民戦争はおもにドイツ南西部に広まった大規模な農民一揆である。ルターは初め農民たちに同情的だったが、農民の目標が社会改革であることを知ると領主側に転じ、運動の徹底的弾圧を訴えた。

問(5) 難易度：★★★★☆

解答

シク教

解説

16世紀以降、インドのパンジャブ地方に王国を建ててイギリス東インド会社と戦った教団が奉じた、ナーナクを祖とする宗教はシク教である。シク教はスーフィズム（イスラーム教）とバクティ信仰（ヒンドゥー教）が融合した宗教で、一神教で偶像崇拝とカースト差別を禁止した。シク教はパンジャブ地方を中心として広まり、19世紀にはラホールを中心としてシク王国が建てられた。19世紀半ばにはイギリスとの間で起きたシク戦争に敗北し、イギリスの支配下におかれた。

問(6) 難易度：★★★★☆

解答

シパーヒー（別解：セポイ）

解説

植民地化が進むインドで1857年に起こった反乱のきっかけを作り、そのおもな担い手ともなったインド人傭兵はシパーヒー（セポイ）である。新式ライフル銃の薬莢の包み紙に牛と豚の油が使用されているとのうわさは、牛を神聖視するヒンドゥー教徒と、豚を不浄視するイスラーム教徒の両方から反感を買い、ヒンドゥー教徒やイスラーム教徒のシパーヒー（セポイ）が銃使用を拒否したことを契機として、シパーヒーの大反乱（インド大反乱、セポイの乱）が起こった。デリーを占領した反乱軍は有名無実となっていたムガル皇帝の復活を宣言し、各地の農民や職人も呼応して「インド大反乱」となった。しかし、反乱軍には統一した組織も目標もなかったため、イギリス側の反撃で鎮圧され、ムガル帝国は名実ともに滅びた。その後、イギリス支配下で1877年にインド帝国が成立し、イギリス政府による直接統治が始まった。

問(7) 難易度：★★★★☆

解答

パリ＝コミューン

解説

プロイセン＝フランス（普仏）戦争後の講和条約に反対した民衆は、兵士たちの武装解除を求めたティエール（臨時政府）のブルジョワ政権に対して不満を爆発させ、1871年3月にパリ＝コミューンを樹立した。これは世界史上で初めて、労働者などの民衆が中心となって作った革命的自治政府である。しかし、ドイツ軍の支援を受けたティエールによってわずか72日で鎮圧された。この時の戦闘で3万人以上が犠牲となり、その後もコミューン参加者に対する政府の過酷な弾圧が続いた。

問(8) 難易度：★★★★☆

解答

五・三〇運動

解説

1925年（孫文が死去した年）に上海で起こり、やがて労働者や学生を中心とする、不平等条約の撤廃などを求める反帝国主義運動に発展した運動は五・三〇運動である。五・三〇運動は、1919年に北京で起きた五・四運動に次ぐ反帝国主義運動の第2のピークといわれている。上海でストライキ中の中国人労働者が射殺された事件に対する抗議運動が活発化し、学生・労働者のデモに対してイギリス警官隊が発砲し多数の死傷者が出たのを機に闘争が激化し、全国的反帝国主義闘争に発展した。この運動では労働者階級の活躍が目立った。

問(9) 難易度：★★★★☆

解答

ホー＝チ＝ミン

解説

インドシナにおいてベトナム青年革命同志会を結成して農民運動を指揮し、フランス植民地支配に対する抵抗運動の中心となった人物はホー＝チ＝ミンである。ホー＝チ＝ミンはロシア革命の影響でマルクス主義を学び、社会主義運動に参加した。1920年にフランス共産党の創設に参加したあとは、ソ連や中国で活動し、10年後にはベトナム共産党（同年インドシナ共産党に改称）を結成した。1941年にベトナム独立同盟（ベトミン）を組織し、第二次世界大戦中は抗日解放戦を指導した。日本の降伏後の1945年にはベトナム民主国を建国し、初代大統領となった。

問(10) 難易度：★★★★☆

解答

ペレストロイカ

解説

ゴルバチョフが国内改革のために掲げた「立て直し」を意味するロシア語のスローガンはペレストロイカである。1980年代初頭にソ連経済が行き詰まり、西側に大きく遅れをとったという危機意識が起こったため、ゴルバチョフはペレストロイカを実施した。ペレストロイカは、人民代議員大会の創設や協同組合や請負制の導入などの政治と経済における改革を中心としていたが、同時にグラスノスチ（情報公開）や民主化、スターリン批判の再開など社会と文化の広範な側面に関しても改革を実施した。ペレストロイカは1991年のソ連解体のきっかけとなった。

(重森理瑛, 谷口昂輝, 町田佳奈子)